

高野長英記念館の草木

入梅となりました アジサイの花が日ごとに色づいてきています



ヤマボウシ

＊高野長英記念館に隣接する野球場のバックネット裏に大きくたわわになっています。花言葉は「友情」。江戸時代にヨーロッパへわたり、庭木として広く愛されたことに由来しているそうです。（6月4日 撮影）

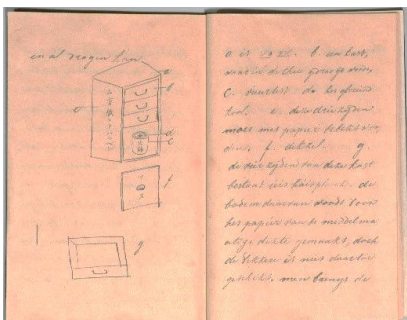


アジサイ

＊アジサイは高野長英の恩師シーボルトがこよなく愛した花です。牧野富太郎はシーボルトが愛した妻の名（おたき Otaksa）をいれ学名としました。学名 *Hydrangea macrophylla* var. *Otaksa* Makino (6月17日 撮影)



チャノキ (6月9日 撮影)



＊シーボルトは、長崎出島のオランダ商館の医師兼自然調査官として来日しました。長英はシーボルトから蘭学全般について学びました。日本研究を進めるシーボルトに、長英は蘭語論文を提出しました。左の写真資料「日本における茶樹の栽培及び茶の製法」は、その一つです。シーボルトはこの論文をもとにヨーロッパで苗木を育て、販売しています。長英はヨーロッパの園芸植物の普及にも貢献したと言えます。